

## 3章「まちの要」づくりプラン（駅周辺のまちづくり方針）

### <まちづくりの視点>

地域の拠点として人々が集い、豊かな暮らしを支えるにぎわいがある

現在の緑区のまちの骨格は、JR横浜線の開通にともなって形成され、開通当時から開業している中山駅、長津田駅とともに地元住民の請願によって開業した鴨居駅、土地区画整理事業とあわせて開業した十日市場駅の4駅を中心として広がっています。

このため、各駅の利用圏が1つのまちのまとまりとなっています。

また、緑区の住宅地の多くは、丘のふもとから丘陵地へと広がっています。その住宅地は谷戸によっていくつにも分断されており、道路やバス路線も谷戸に沿ったものが多く、地域住民の相互の往来を妨げています。このことから、人々を結びつける空間は平坦な丘のふもとに位置する4つの駅周辺となることが適しています。

そのため、4つの駅周辺がそれぞれの周囲に広がる住宅地を束ねる生活拠点として、日常の暮らしを豊かにする商業やサービスをはじめ、文化、交流、市民活動の拠点としての機能が集まる「まちの要」となることが望まれます。

## 3-1 鴨居駅周辺のまちづくり方針

### <目標像>

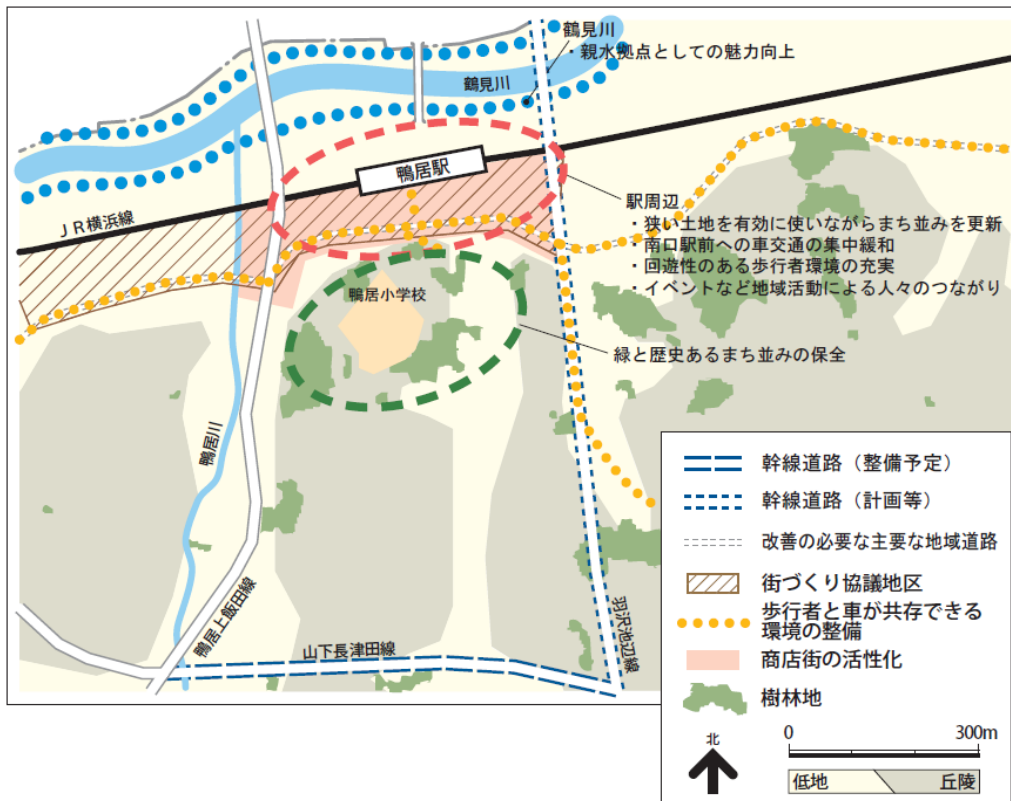
◇ 川を臨むまちとしての魅力を育み、狭い空間を効率よく生かした、人々が集うまち

- ・ 通勤通学などの交通の利便性が高く、駅も快適に利用できる
- ・ 人々が集い、交流の場ともなる商店街が生き生きとしている
- ・ 水辺空間がまちの特色に生かされている

### <現状と課題>

- ・ 昭和37年（1962年）に地域住民の請願によって駅が開業して以来、駅を中心としてまちが急速に形づくられてきました。
- ・ 鶴見川と丘に挟まれた狭い空間に交通が集中し、駅前通りでは駅へ向かう人や車と通過車両が錯綜して、混雑しており、山下長津田線(鴨居地区東側区間)をはじめとする、周辺で整備されつつある都市計画道路により、通過交通の減少とそれによる駅前道路の混雑緩和が期待されています。
- ・ 平成10年（1998年）に駅舎の橋上化が実現し、駅の機能とともに駅南北のつながりが改善されましたが、駅周辺の歩行者空間は狭く、安心して歩ける状況ではありません。
- ・ 商店街やまわりの住宅地への歩行動線を安全でスムーズにすることが求められています。
- ・ 白山ハイテクパークや都筑区池辺町、川向町の工場等で働く人の利用駅にもなっています。
- ・ 川が見える眺望を大切にするなど、鶴見川に隣接しているという特徴を生かしながらまちづくりを進めていくことが期待されているとともに、街中に残る貴重な緑として駅前に映える斜面緑地の保全が求められています。

### ◆鴨居駅周辺のまちづくり方針図◆



## <まちづくり方針>

### （1）南口駅前の交通集中の緩和

鴨居上飯田線、山下長津田線、羽沢池辺線という周辺の都市計画道路整備を促進して、通過車両が狭あいな駅前通りや、住宅地内の道路を利用せずにスムーズに流れるようにします。交通規制やバス停の外部への移設などにより、駅前広場の負荷を低減することを検討します。

### （2）駅周辺の歩行環境の改善

駅前通りや周辺住宅地に延びる主要な地域道路は、必ずしも十分な幅員が確保されていないことから、沿道の建物のセットバックや電線類の地中化、大型車の規制などを検討し、歩行者と車が共存できる環境を整えます。また、車があまり通らない狭い道や坂道を歩きやすく改善して、回遊性のある歩行環境を整備します。

歩行者空間のバリアフリー化を進めます。

### （3）土地の有効利用とまち並みの更新

狭い土地を有効に使える市街地整備のあり方を模索します。駅前広場の拡張や周辺ビルの共同建て替えを検討し、まち並みの更新を図るとともに、街づくり協議地区内の駅前通り沿道ではセットバックなどによる歩行者空間の確保を図ります。

### （4）抜本的な解決策の模索

駅前広場及び駅前通りの交通環境について、上記のような方策を講じてもお改善されない場合においては、抜本的な解決策を地域の意見を聞きながら模索していきます。

### （5）商店街の活性化

日常生活を支える身近な商店街として、サービスの多様化を図り、商店街の魅力を高める取組に対して支援します。

また、鴨居駅の利用者には、白山ハイテクパークや都筑区内の工場等への通勤者が多いことから、そうした人たちにとっても魅力的な商店街を形成します。

### （6）交流の場の充実

高齢者や子育て世代など誰にとっても利用しやすく、多世代が交流を図り地域が活性化するような施設の充実を図ります。

### （7）拠点としての魅力向上

親水拠点や堤防上の遊歩道、川を臨む人道橋、水路上部を活用したプロムナードなど、水辺やその上部の大きな空間を感じることができる場所の魅力を更に高めるための検討を行います。また、駅前に残る斜面緑地や歴史を感じる長屋門など、景観に優れたまち並みを保全します。

地域活動団体による駅の東西自由通路を用いたイベントや、鴨居原市民の森を始めとする地域の魅力ある資源への誘導、また、周辺商業施設や工場などとの連携を図り鴨居駅の魅力を高めます。

### （8）工業集積地の維持

白山ハイテクパーク及びその周辺に立地する工場群は、まちの活力を維持する大切な都市機能の一つです。そのため、操業が継続できるような環境の整備に努め、工場集積の維持を図ります。なお、工場の土地利用転換にあたっては、周辺の工場の操業環境を維持するよう誘導します。



## <まちづくり方針>

### （1）周辺交通施設の整備

中山駅南口では、再開発事業等の促進により駅前広場の整備や駅前道路の拡幅を進めます。また、中山北山田線の整備を促進し、川和踏切や三保踏切の渋滞を解消するとともに、通過車両を駅前に呼び込まない円滑な交通の流れを実現します。さらに、バスターミナルの整備や商店街の駐車場の適切な配置とあわせて、駅前通りを歩行者やバスなどの公共交通を主体とした通りへと転換することについても検討します。

横浜環状鉄道については、事業化を検討します。

### （2）歩行環境の整備

誰もが容易に駅周辺を移動できるように、バリアフリーの歩行環境を整備します。また、遮断時間が長く、歩行者や車が滞留する川和踏切では、中山北山田線の整備により立体交差化を図るとともに、歩きやすい歩行環境の実現や景観にも配慮します。

駅北側では、ハーモニーみどり（地区センター、地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点などからなる複合施設）やスポーツセンター、障害者のための様々な福祉施設などが集積しているため、誰もが移動しやすい環境づくりを進め、駅南北の一体化を図ります。

### （3）緑と水の回廊の整備

四季の森公園プロムナードや中山北緑道を樹木などの緑でつなぎ、駅周辺にも緑と水の回廊ルートを引き込みます。緑が映え、潤いのある駅前広場や恩田川へ続く道路の緑化などを進め、緑と水の拠点を形づくっていきます。また、横浜動物の森公園への玄関口となる中山駅では、サインの整備、バスへの乗り換えやすさの向上、情報サービスなどにより、玄関口らしさを演出します。

### （4）商店街の活性化

商店街の持つ“昭和らしさ”を大切にしつつ、誰にも優しい商店街づくりを進めることによって、地域の商店街として活力を高めていきます。そのために、高齢者や障害者も利用しやすいバリアフリーの店構えや多様なサービスの提供、空店舗の積極的活用などに取り組みます。

また、水や緑の豊かな、地域の資源を生かしたイベント等による活性化を図ります。

### （5）工場集積の維持

恩田川沿いに立地する工場群は、まちの活力を維持する大切な都市機能の一つです。そのために、操業が継続できるような環境の整備に努め、工場集積の維持を図ります。なお、工場の土地利用転換にあたっては、周辺の工場の操業環境を維持するよう誘導します。

### （6）駅周辺住宅地の環境改善

商店街背後の住宅地は、道路が狭く、木造住宅が密集しています。狭あい道路の拡幅やポケットパークの整備など、様々な防災対策を推進し、災害への備えのあるまちに改善していきます。

### （7）文化・情報の発信

区役所や警察署などの行政機関が集積するまちとして、区民の求める情報を発信するとともに、公会堂・市民活動支援センターを中心とした文化活動を支えるシステムや場所を充実させ、区民の交流を活発にしていきます。

### （8）旧中山小学校の跡地利用

旧中山小学校の跡地利用については、消防署をはじめとした公的利用の促進を図るとともに、中山駅周辺のより良いまちづくりを進めるための利用方法を検討します。

### 3-3 十日市場駅周辺のまちづくり方針

<目標像>

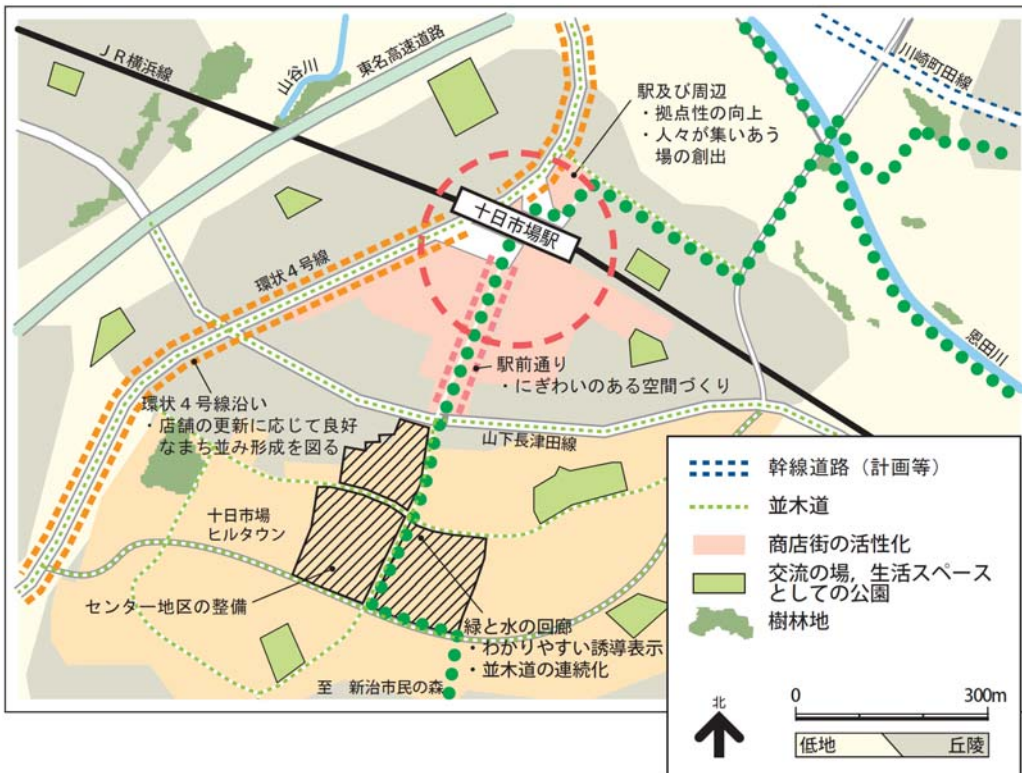
◇ 緑豊かで、人々が行き交い文化の香るまち

- ・ 整然としたまちの中に生き生きとした表情がある
- ・ 生涯学習、スポーツ、レクリエーション活動のためにたくさんの人が訪れる
- ・ 駅を利用する学生や高齢者が集い、様々な世代間の対話と交流が生まれる

<現状と課題>

- ・ 昭和54年（1979年）に周辺の土地区画整理事業とあわせて、恩田川を臨む丘に十日市場駅が開業しました。
- ・ 駅の南側には、十日市場ヒルタウンに向かって歩行者軸が伸びています。
- ・ 駅周辺には、図書館や地区センター、高齢者施設などの公共施設が集積しているとともに、大学や高校などの教育施設、新治市民の森があります。
- ・ 周辺にある大学や新治市民の森や里山公園をまちの魅力として取り込んでいくとともに、計画的につくられたまちに、人々の躍動感やにぎわいをどのようにして生み出していくかが課題となっています。
- ・ 環状4号線沿いに沿道型の商業施設や飲食店の立地が相次いでいるなか、駅周辺の商店街の魅力を高めることが求められています。

◆十日市場駅周辺のまちづくり方針図◆



## <まちづくり方針>

### （1）ターミナルとしての拠点性の向上

十日市場駅が環状4号線と接し、後背地に大規模な住宅団地を抱えていること、また周辺に大学が集まっていることから、バス網の利便性を高めるとともに十日市場周辺の拠点としての魅力を向上させ、拠点性を高める検討を行います。

### （2）公共施設のネットワーク

駅南側には緑図書館や地区センターなどの公共施設をはじめ、地域ケアプラザ、老人福祉センター、みどり福祉ホーム、子育て支援施設などの福祉施設も集積しており、高齢者や障害者及び子育て世代をはじめ誰もが利用しやすいまちづくりを進めるとともに、地域の活動拠点としての連携を図ります。

### （3）十日市場ヒルタウンセンター地区の整備

十日市場ヒルタウンセンター地区において土地の高度利用を図り、周辺の大規模な住宅団地等を含めて超高齢化や環境に配慮した住宅地の整備を推進します。多世代が住める住宅や再生可能エネルギー等を導入した環境配慮型の住宅、また、地域住民が集う場の整備などを検討します。さらに周辺の医療・福祉等との連携も視野に入れ、持続可能な住宅地の構築を目指します。

### （4）人々が集いあう場の創出

駅及び周辺に、駅の利用者が情報交換をしたり、ちょっと立ち寄れる場を用意することで、人々の接点をつくっていきます。また、学生が街との関わりを深め、活動成果を表現したり、区民と交流する場をつくることも検討します。

### （5）にぎわいのあるまちづくり

花木による季節の演出や十日市場の名にちなんだイベントの実施などによって、駅前通りに生き生きとした表情を加えていきます。また、活気のある通りにするために、沿道の商店を開かれた店構えにするなど、関係者自らが創意工夫し、合意していくよう検討します。

農産物の生産地が近いことから、その特色を生かしたイベントや商店街づくりを行います。

### （6）環状4号線沿いの良好なまち並み形成

駐車場や看板類などについて、ルールづくりを検討し、建物の建て替えに際して徐々に良好なまち並みを形づくっていきます。また、まちの魅力を高めるために、桜を生かしたまち並みづくりを目指します。

### （7）緑と水の回廊への誘導

南口からは新治市民の森方面へ、北口からは恩田川方面へと向かうルートをサインなどによって案内し、愛称のついた並木道を整備し、緑と水の回廊へ誘導します。

### （8）大学・高校との連携

周辺に立地する大学や高校の学生や職員が、まちづくり活動や地域活動に参加する機会を生み出すなどして、大学や高校とまちとの関係を深めます。

## 3-4 長津田駅周辺のまちづくり方針

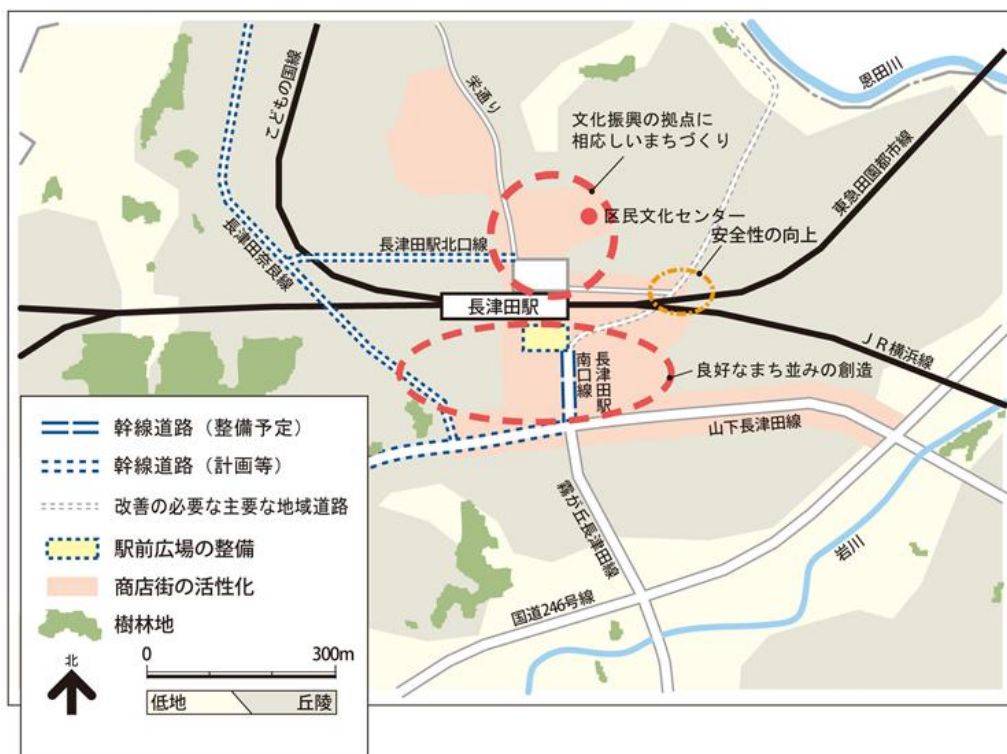
### <目標像>

- ◇ 歴史を生かした、交通結節点にふさわしいにぎわいのあるまち
  - ・道路や駅前広場が整備され、交通結節点として人でのぎわっている
  - ・新しいまち並みとともに、まちの魅力である歴史が受け継がれている
  - ・文化・交流の拠点として市民活動が盛んで、商店街も生き生きとしている

### <現状と課題>

- ・古くは東海道の脇往還大山街道の宿場町として栄え、明治41年（1908年）にはJR横浜線の開通にあわせて長津田駅が開業しました。
- ・JR横浜線と東急田園都市線、こどもの国線の乗り換え駅として1日約12万人の乗客数があり、市の主要な交通結節点となっています。
- ・道路や駅前広場などの都市基盤が未整備のまま、まちが形成されてきたために、商店街の背後では道路が狭く、住宅も密集しているなど、防災上問題があるとともに、駅前では送迎車等による混雑が問題となっています。
- ・利便性が高く魅力ある商店が少ないために、鉄道の乗り換え客がまちに出て買い物をする姿があまり見られません。
- ・北口では、市街地再開発事業によって区民文化センターを含む再開発ビルと駅前広場が整備されました。南口では、長津田駅南口線の整備が進んでいます。
- ・周辺の長津田玄海田地区や奈良地区における大規模な土地区画整理事業により、駅の利用圏の人口増加にも見合った拠点としての役割が期待されています。

### ◆長津田駅周辺のまちづくり方針図◆





## <まちづくり方針>

### （1）道路網の整備

交通結節点としての役割に應えるため、駅南口地区では、長津田駅南口線の整備及び山下長津田線の拡幅を推進します。また、駅北口地区では長津田駅北口線や長津田奈良線などの都市計画道路の整備を推進します。それとあわせて栄通りなど駅へ向かう歩行者が通行する道路を中心に、安全で快適な歩行者空間を実現します。

### （2）南口のまち並み整備

駅南口地区では、長津田駅南口線の整備及び山下長津田線の拡幅にあわせて、市街地の再整備を地域の意見を踏まえて検討します。これらを契機に良好なまち並みを創造するとともに、にぎわいのある商店街づくりを進めます。

### （3）北口のにぎわいづくり

駅北口地区においては、文化振興の拠点となる区民文化センターを中心に、文化・芸術イベント等を開催し、地域住民が身近に文化・芸術に触れあえる環境の創出を図ります。また、商店街では、文化振興の拠点に相応しいまち並みの整備と店舗の導入を図ります。

長津田奈良線、長津田駅北口線の整備に合わせ、沿道のまちづくりのあり方を地域の意見を聞きながら検討します。

### （4）自然及び歴史資源の保全・活用

御野立所や大石神社などに残る社寺林や長津田市民の森や生産緑地地区など駅周辺に残る自然を保全します。また、駅南口では、大山街道の宿場町及び鎌倉古道などの歴史資源に光をあて、区民がその歴史を共有できる環境整備を進めます。例えば、文化財を生かして昔の面影が感じられる環境に整備したり、伝統を伝える歳事などを掘り起こして、商店街の振興に結びつけることなどを模索します。

### （5）区民文化センターの拠点性の充実

子どもから大人まで、多くの区民が気軽に立ち寄ることのできる文化活動や情報発信の拠点、また、地域連携や文化振興を担う人材を育成する拠点としての機能を充実させます。

### （6）住宅地の交通環境の改善

駅周辺の住宅地では、交通規制や交差点における隅切りの整備、路側帯のカラー舗装など様々な方法により交通環境を改善するとともに、歩行者の安全を図ることを検討します。狭あい道路については拡幅を促進します。

### （7）震災時の帰宅困難者対策

乗客数が多い長津田駅については、震災時には他の3駅より多数の帰宅困難者が発生することが想定されることから、区民文化センターの他、駅周辺の民間施設の協力を得て、一時滞在施設の確保に努めます。